

## 質疑応答

---

### 参加者 A

先ほど話に出ていたかまくら祭りにボランティアでかまくら作りに毎年行っています。かまくらを作るのは楽しくて、寒くて、大変です。かまくら作りのボランティアにつきましては、先ほど湯西川の方からのお話にもありましたように、湯西川の方々とボランティアの方々でかまくらを作っています。小さな温泉地なのでなかなかお金がなく、本当ならアルバイトで働いてもらうのが良いのかもしれませんが。日本人の若い人たちや海外の若い人たちにとっても、インスタ映えということで、寒くても面白かったと思えるようなボランティアスタッフだと思いますので、もしよろしければ、長丁場ではありますが、一日でもボランティアに行きたいという方がいれば、お願いしたいと思います。行きたい方は私に声をかけてもらって、ご検討いただければと思います。よろしくお願いたします。

### 参加者 B

留学生の皆さんと楽しく日光東照宮と湯西川地域を見てきました。今日の発表の感想ですが、留学生の日本語がとても上手で、とても皆さん優秀です。現地でのアンケート調査も、本当に皆さんは熱心に協力してくださいました。今回は学生のアンケート調査をただ見ていました。そうしたら、留学生はいろんな国から来ているのですが、日本の方には日本語で丁寧に尋ねていました。

それから、私からの感想は、湯西川を見て、観光施設が足りないことや、あるいはアミューズメント施設はどうかということもありましたが、私はずっとそれを聞いていて、アンケートに答えてくださる住民の方の素朴さを感じました。働いている方々から見ると、学生さんはお孫さんのような存在ですから、そんな皆さんこそ財産だなと、聞いて感じました。湯西川には無いと言っていた人がいましたが、そのようなことは無い、豊かな山、川、人々があります。住んでいる人自身は気が付かないのだと思いました。この点については疋野さんがプレゼンテーションの中で主張しておりました。湯西川の魅力は何なのか、それは住んでいる人々だにご指摘をいただいて、そうだなという風に私は感じたところがあります。

### 参加者 C

グループ A の方のご提案で、国際交流に興味のある学生と外国人観光客とのふれあいに關するものがあつたと思います。外国人観光客の方が、日光市のどういうところに、どういうところを案内すれば、立ち止まってくれるのか、話を聞いてもらえるかをグループ A の方以外でも良いので、聞いてみたいと思います。留学生であれば日光市のどういうところに魅力を感じるかも聞かせていただきたいと思います。

### グループ A メンバー

ご質問ありがとうございます。私たちが考えたのは、日光東照宮のガイドが英語しかないということがあったので、日本人の学生などが東照宮について勉強し、英語で伝え、留学生の皆さんもいろんな言語を使用されている方が多いので、日光東照宮をメインに考えたのですが、他の地域でもできると考えています。

### 留学生 A

ご質問ありがとうございます。留学生から考えると、東照宮の歴史などにすごく関心を持っています。宣伝するのであれば、東照宮の歴史のことをもっと採り上げると良いと思います。

### 参加者 D

日光東照宮のバリアフリー化ということを述べていましたが、日光東照宮は世界遺産ですから、歴史、空間、雰囲気というものを大切にしていかなければならないと思っています。最近ですと、名古屋城の木造化に対してエレベーター設置の要望などもありましたが、私としてはそういうことは言語道断だと思っています。

### 留学生 B

私が日光東照宮に行った時は、ツアーガイドさんがいますので、いろいろ紹介されました。旅行した人の話を聞いて、音声ガイドなど英語に対する障害も無くすことや、案内などを通して、人に対する親切さをもっと大事にするべきだと思いました。

### 参加者 E

まず始めに感心したことが、学生の日本語のすばらしさです。とても上手で聞きやすかったです。

また私は、中国の万里の長城やオーストリアに行ったことがありますが、手すりやスロープといったものがありませんでした。しかし 20 年ほど前だったので今はあるかもしれません。観光地は障害者やお年寄りには不便なところだなと、旅行好きの私としては、いつも思っているところでもあります。

それから、モリソン先生の話にもありましたように、アナログではなく、世界中電波が飛び交っている時代なので、それに便乗しないと湯西川の観光も衰退してしまうのではないかと思います。

### 伴弘美様コメント

ありがとうございました。早速持ち帰って、話し合いの議題にしたいと思います。この中でも実際に交通の不便さや、外国語表記といったことはずっと話し合いの中にもありまし

た。また、かまくら祭りのメイン会場が平家の里に変わり、2年が経ちますが、そちらの方には外国語表記がされるようになりました。中国語、韓国語、英語で、施設の中だけではなく、道路にも表記があると良いのではないかと反省しております。

SNSの時代ということで、かまくら祭りに来ている外国の方にインタビューしましたら、ツアーで来る方も多いのですが、お友達のSNSを見て、行きたくなったので来たという方もここ数年増えています。SNSの力は本当に大きなものであると実感しておりますので、私も勉強して、発信力を強くしていきたいと思いました。本当にありがとうございました。

#### 疋野吾一様コメント

皆さんのプレゼンテーションを聞いて、自分の生まれた国と日本の比較、例えば、タイではブログが流行っていることや、香港ではグループツアーが流行っていることなどがとても参考になりました。自分の活動に活かせることがたくさんあると思いました。

仮に湯西川に来るときに、宿泊料金がリーズナブルでないという話がありましたが、具体的にどの金額がリーズナブルなのか聞いてみたいと思います。

#### バーバラモリソンコメント

もし値段だけでなく、立派な夕食無し、例えば、お蕎麦を食べてから温泉につかるだけで十分だと、1つのパターンではなく、さまざまな対象、パターンを学生にもっと聞いてみると良いと思います。

#### 参加者F

宿泊費については参加者の皆さんも高いとおっしゃっていて、対象によって実際私も紹介させていただいて、年末や、かまくら祭りに行きたいと思って調べましたが、鬼怒川温泉や他の温泉地と比べると、社会人にとってはあまり高いものでは無く、学生の場合はバジェットホテルで食費を抑えて宿泊するなど対象によってパッケージを変えるような工夫があれば良いと思います。

また、モリソン先生からお話があったように、観光を通しての若者との交流であれば、夏休みやゴールデンウィークに高校生や大学生、留学生を観光ガイドとして、英語や他の言語で案内するというのをしてもらえると良いと思いました。

また、その地域の若者が地域の遺産について学ぶ機会でもあるので、学校を通して若者との観光、交流を活発化できると思いました。

プレゼンテーションで出てきた課題については、湯西川は四季それぞれ魅力がある分、課題も違ってくるので、今回アンケートをしたタイミングが12月ということで、あまり観光客が多くなく、雪も降っていない時期でしたが、他の時期に同じようなアンケートをしたら、また違う結果が出てくるのではないかと思います。

施設や表示の外国語表記に関しては、建物の趣や雰囲気もあると思うので、逆に外国語表

記を多くし過ぎると、景観も変わってきますし、表示だけで終わってしまって、地域の人とのコミュニケーションが少なくなってしまうので、その点のバランスを考えることが必要だと思いました。

#### 参加者 G

先ほどから、ガイドについてのお話がありましたが、日光東照宮にはガイド組合というものが、その組合を通さないとガイドと認められないので、ガイドの課題についてはその組合での話し合いになるかと思います。

また、バリアフリー化についての話もありましたが、東照宮の陽明門のそばまでは、スロープがあります。説明が無いので、スロープがあるということを知っている人が少ないのかもしれないかもしれませんが、車椅子やベビーカー、あるいは体の不自由な人についてはそのスロープを使えるという説明があると思います。社会福祉協議会のほうで車椅子ボランティアというものをしております。体重制限はありますが、修学旅行などで東照宮を訪れるお子さんに対して、階段で車椅子を持ち上げるというボランティアがあります。

説明が少なく、観光ガイドで持っている車椅子の数もすごく少ないので、体の不自由な方に対する器具は非常に少ないと思いますが、全く無いということは無いですので、聞いていただければと思います。

#### 趙コメント

先ほどの湯西川温泉地の宿泊費の話ですが、外国人や学生にとって車を持っていない方が行くには交通機関を利用するしかなく、また宿泊費が下がっても交通移動の費用が高いので、なかなか行きづらいという印象があります。先ほどの皆さんの話の中にも、地域の予算が大変なことがあったので、その中に交通の不便さや、費用の高さといった視点を含めて考えると、外国人観光客や学生が行けるような交通手段があれば良いと思いました。

#### 湯本コメント

湯西川地域には今回初めて行きましたが、大変自然豊かで素晴らしいところだと思います。そこで思ったことは、エコツーリズムという発想でプログラムを行うと良いのではないかとことです。名称や名物が無いという意見も留学生から寄せられました。確かに歴史的な遺産や観光スポットがあるわけでは無いのですが、四季の豊かさ、自然の豊かさといったものを一捻りして、エコツーリズムができるのではないかと思います。

情報発信に関しては、確かに SNS もありますが、旅行好きな人たちが情報収集のツールとして使っているのは、ロンリープラネットというガイドブックがあります。それには日光のことは載っていますが、湯西川や栗山のことは載っていないと思います。最近ではトリップアドバイザーというウェブサイトもあります。そこで良いコメントがたくさんつくると、良い集客力につながると思うので、そうしたツールも上手く活用できるようにすると良いと

思います。しかし SNS の怖いところは、ネガティブなコメントがつくと収拾がつかなくなるので、そのリスクも踏まえておく必要があると思います。

それから、教育体験プログラムといったことも栗山地域でできると思います。環境教育や野外教育のプログラムとして、少なくとも栃木県の小中学生が必ず一度は栗山に行く、そこで様々な体験をするということをすれば、運営面や金銭面でプラスになり、湯西川の文化的なソフトウェアや自然を生かしたプログラムを再構成していくことができるのではないかと思います。